



写真① 「深江村・片山村秣場入会地図」貞亨4年(藤崎文書)。唐津領であった両村は、慶安2年(1649)、片山村が幕領となったことで、秣場をめぐり対立するようになります。入会権についての裁判が行われ、その判決文の裏にこの絵図が描かれました。

写真② 「深江村古図」(藤崎文書)。18世紀初め、深江・一貴山・長糸・雷山にまたがる25村は中津領となります。深江に奉行所が置かれ、年貢米などの積出港としてにぎわいました。

写真③ 「御公料唐津領境付近絵図」元禄4年(1691)(山崎文書)。黒い線で幕領と唐津領が区切られています。線から左の深江村、大入村が幕領、右の福井村が唐津領です。

写真④ 「筑前国怡土郡絵図」慶長4年(1599)(藤崎文書)。当時の怡土郡全てを描いた地図です。

写真⑤ 往来手形。安政7年(1860)、肥前国松浦郡岡口村の賀光寺が、檀家である怡土郡吉井村の女性が四国遍路で往来することを、各村々の庄屋役人に申し出た往来手形です。



往来手形
 一、筑前国松浦郡岡口村の賀光寺が、檀家である怡土郡吉井村の女性が四国遍路で往来することを、各村々の庄屋役人に申し出た往来手形です。
 安政七年二月 賀光寺
 下、
 筑前国松浦郡岡口村



年表

- 前 一五〇〇年
上深江小西遺跡
- 前 七〇〇年
広田遺跡
- 前 四〇〇年
稲作が我が国で始まる
石崎曲り田遺跡
- 前 一五〇年
木舟三本松遺跡
- 前 五〇〜一〇〇年
伊都国に王が現れる
- 五七
倭の奴国王、後漢に遣使し
金印を受ける
- 一〇〇年
深江井牟田遺跡
- 二〇〇
伊都国の繁栄(一大率が置かれ、
周辺諸国を檢察する)
- 二二九・二四七
邪馬台国の女王卑弥呼、魏に
使いを送る
- 二五〇年
大型前方後円墳が糸島各地で
つくられる
- 三〇〇年
一貴山銚子塚古墳がつくら
れる

- 五五〇ころ
萩の原古墳群がつくられる
- 四七八
倭王武、宋から安東大將軍の
称号を受ける
- 五三七
筑紫国磐井の乱
- 五三八
仏教が伝わる(五五二年の説
もある)
- 五九三
聖徳太子が摂政になる
- 六〇二
来目皇子、糸島に来るが、病
のため新羅出兵を中止
- 六四五(大化元)
大化の改新
- 七〇〇年
塚田南遺跡
- 七〇一(大宝元)
大宝律令が制定される
- 七〇二(大宝二)
筑前国嶋郡川辺里戸籍(現存
する最古の戸籍 志摩町)
- 七二〇(和銅三)
平城京に都を移す
- 七二六(神龜三)
山上憶良、筑前守となる